

### 法政大学トレーニングセンターにおけるアスレティックトレーナー活動について：2022年トレーナールーム活動報告

藤村, 直樹 / FUJIMURA, Naoki

---

(出版者 / Publisher)

法政大学スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

BULLETIN OF Sports Research Center, HOSEI UNIVERSITY / 法政大学スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

41

(開始ページ / Start Page)

71

(終了ページ / End Page)

74

(発行年 / Year)

2023-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00026653>

## 法政大学トレーニングセンターにおけるアスレティックトレーナー活動について —2022年 トレーナールーム活動報告—

### Athletic Trainer Activities in the Hosei University Athletic Facility —Report of Athletic Trainer Activities in 2022—

藤 村 直 樹 (法政大学多摩トレーニングセンター)  
Naoki Fujimura

#### 要 旨

昨年に引き続き、本年も多摩トレーニングセンターにはAT有資格者が配置された。昨年度よりもトレーニングセンターの利用制限が緩和され、各体育会の利用者も多く見られた。トレーニングセンター内のトレーナールームに関しても、昨年と同じく1年を通して一定の体育会利用者の対応を行うことができています。今回は昨年との比較を交えつつ、利用者の対応内容や目的、その傾向など報告するものである。

キーワード：アスレティックトレーナー， トレーニングセンター， トレーナールーム， 体育会サポート  
Key words : Athletic Trainer, Athletic facility, Trainer room, Support for Athletes

#### I 緒言

本学の多摩トレーニングセンターのトレーナーにおいては、2019年4月より再度AT有資格者（並びに鍼灸あんまマッサージ指圧師国家資格保持者）を配置する運びとなっている。昨年より引き続き、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響の影響から、トレーニングセンターの利用に際しては一定の制限を設けた形で開放した。しかしながら、「Withコロナ」の社会的流れに伴い、利用時間枠の増加、同一時間枠での複数団体利用許可、一般学生利用枠の設置といったような制限緩和を行った。これにより、幅広い学生にトレーニングセンターの利用機会が生まれ、2022年のセンター利用者数も昨年より増加する形となっている。

トレーニングセンター利用に際しては、利用時にはコーチ、マネージャー、学生トレーナーにご協力頂き、消毒や換気などの衛生管理を十分に行った。加えて、付随するトレーナールームでの選手対応においても、検温および体調確認、マスクの着用や事前事後のアルコール消毒を徹底し、大声を出すといった飛沫を飛散させるような行動は控えるよう促した。また、今回一般学生利用を設けるにあたり、スポーツ健康学部ヘルスデザインコースにてトレーナー教育を受けている学生スタッフを管理者として配置、利用者に対する感染対策教育やトレーニング指導を行った。

昨年よりも各団体内での感染症対策も徹底されていたこともあり、クラスターなどの大きなトラブルもなく、1年を通して概ね安定したトレーニングセンターの運営を行うことができた。また、トレーナールームにおいても、帯同するトレーナーの処置を希望した学生並びにOB・OGに対して、ケアおよびコンディショニング、アスレティックリハビリテーショ

ンなどの対応を継続することができている。

このように、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした環境設定を継続しつつ、今年もトレーナールームにおいて一定人数の体育会利用者の対応を行うことができた。以下に利用者の対応内容や目的、その傾向などを報告するものとする。

#### II 対象と方法

##### 1. 測定対象者および調査期間

対象者は、アスレティックトレーナー有資格者（兼：鍼灸あんまマッサージ指圧師資格保有者）が在室する際に、多摩トレセントレーナールームを利用した者とし、本学に在籍する学生およびOB・OGの者も含めた。調査期間は2022年1月～2022年12月とした。

##### 2. 対応件数および処置内容分類に関して

利用者の集計に際して、対応した処置人数及び処置件数を1部位につき1件として示すとともに、以下の項目で処置した内容を分類し、示すこととした。

###### 2.1 処置目的

処置目的を、Check・Conditioning（以下Cond）・Reconditioning（以下Recond）・Acuteの4項目に分類し、その割合を示した。分類の詳細に関しては以下の通りとした。

Check…評価・状態の確認のみ

Cond…マッサージ希望や試合練習前/後の調整など、明確な主訴の無いもの

Recond…アスリハや局所テーピング対応や外傷障害に対する施術、局所部位の明らかな主訴のあるもの

Acute…外傷・障害に対する急性期の対応

2.2 処置部位

処置部位に関しては、Condの場合、体幹・上肢・下肢・全身の4項目に分類するとともに、Recond・Check・Acuteの場合はさらに細分化し17の部位に分類を行い、件数を示した。

2.3 処置内容

処置内容については、Manual Therapy（マッサージおよび徒手療法，以下MT）・Stretch（ストレッチ，以下ST）・Exercise（運動療法やトレーニング指導および処方，以下Ex）・Taping（テーピング，以下Tape）・Acupuncture（鍼治療，以下Acu）・Icing（アイシングおよびそれに付随する処置，

以下Ice）・hemostasis（止血処置，以下Hem）の7項目に分類し、その割合を示した。

Ⅲ 結果

1. 処置人数および処置件数

調査期間中のトレーナールーム利用者は延べ235名，総処置件数は269件であった。月間の利用者推移に関しては、図にて示した（図-1）。併せて前年と比較した利用者数の変遷も提示するものとする（図-2）。

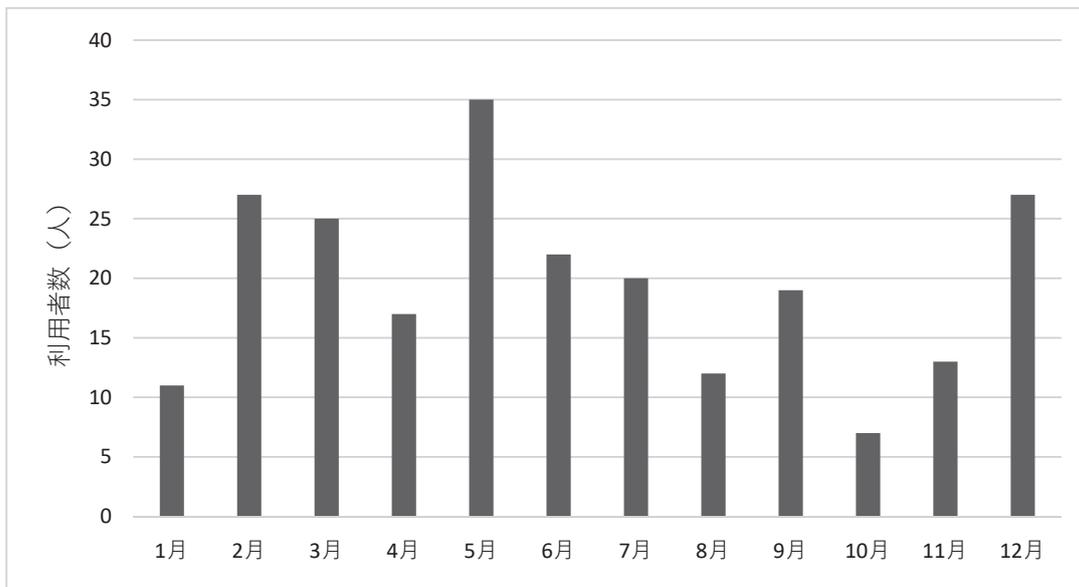


図1 トレーナールーム月間利用者数推移

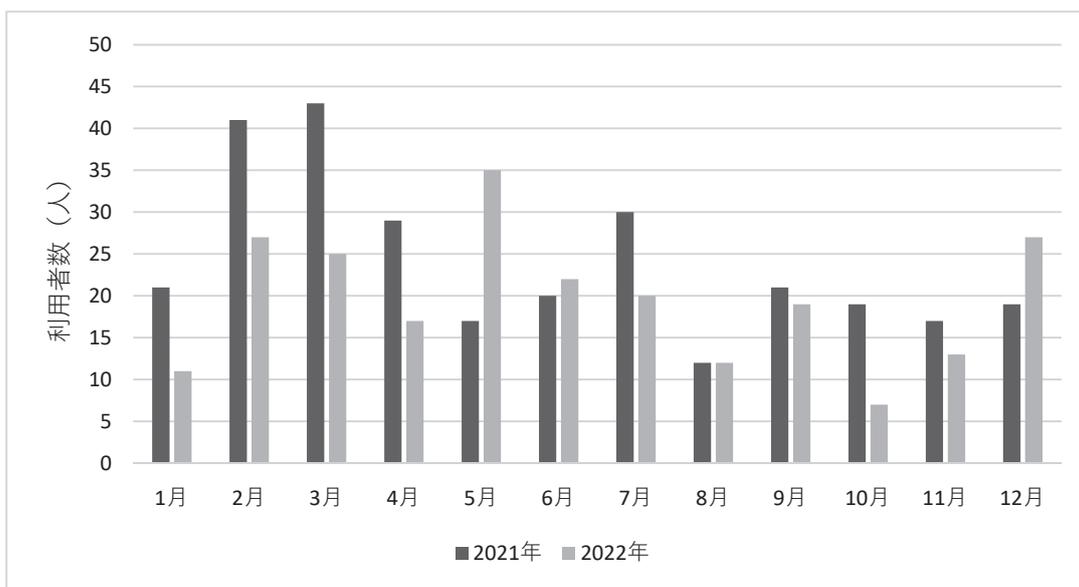


図2 トレーナールーム月間利用者数推移（昨年比較）

## 2. 処置目的

処置目的別割合について以下の図にて示した（図-3）。Cond と Recond が大半を占め、評価のみの check は 0 件。両項目共に昨年より件数は減少しているが、Recond の割合は昨年度と同様に高く、明らかな主訴を抱えた利用者が多いことがわかる（図-4）。

## 3. 処置部位

処置部位に関して Cond, Recond 別に比較したものを示した。Cond では全身の割合が大部分を占めた。Recond におい

ては大腿後面（主にハムストリングス）が 34 件で最も多く、次いで下腿、膝、足関節、足部と続いた（図-5）（図 6）。

## 4. 処置内容

処置内容に関しては徒手療法（MT）が最も多くの割合を占める形となっている。併用することの多い Ex が次いで多く、昨年度よりも全体に占める割合が高い。（図-7）。

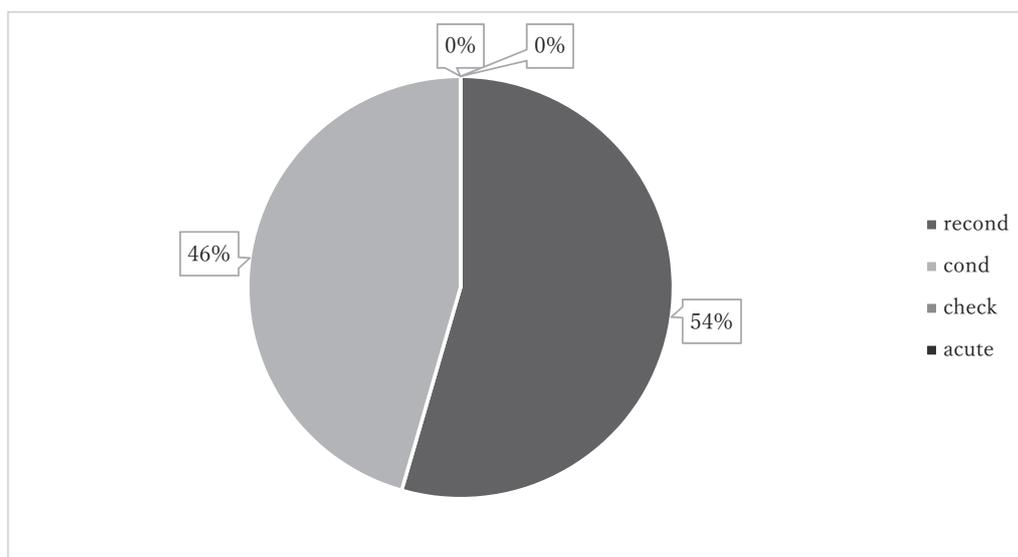


図 3 処置目的割合

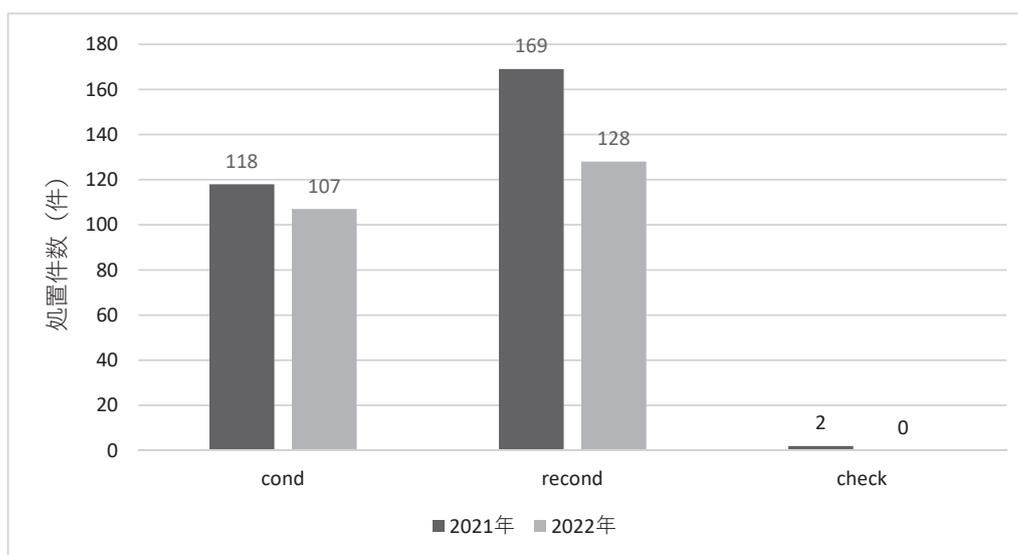


図 4 目的別処置件数（昨年度比較）

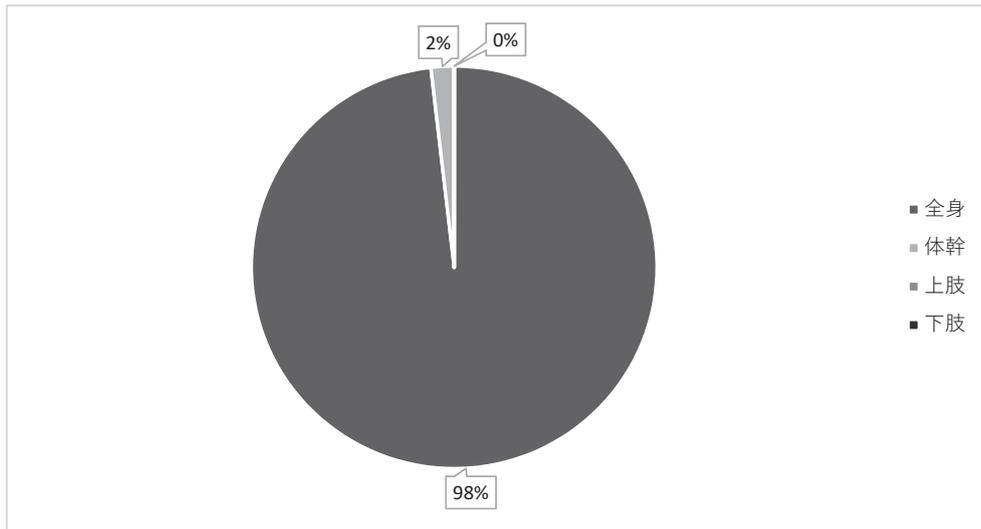


図5 コンディショニング処置部位割合

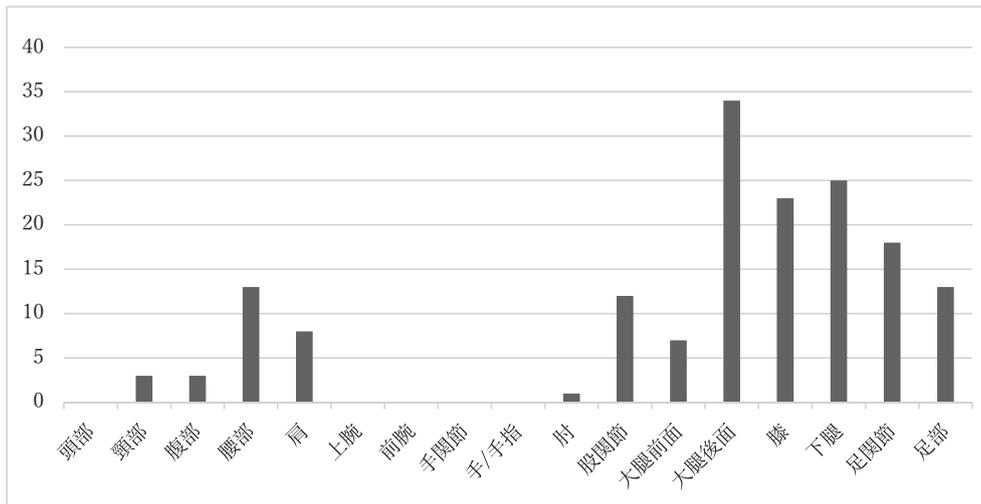


図6 リコンディショニング処置部位別件

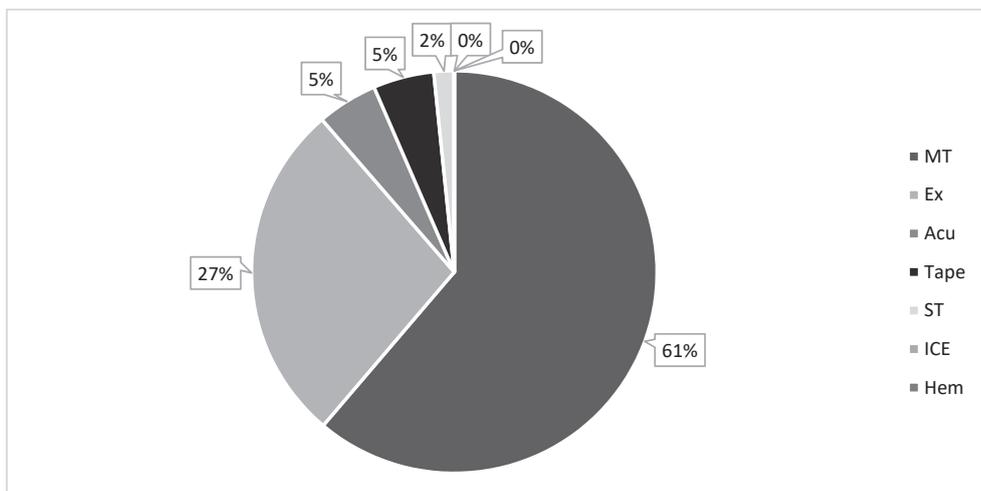


図7 処置内容割合